

はるか 悠

多気町郷土資料館だより

2024. 7. 1

110

たき



多気郷土資料館開館30周年記念講演記録

「人が歩き旅する街道」

多気町内の街道を中心に

講師 伊藤文彦氏(三重県職員 世界遺産学博士)による寄稿

2月3日、開館30周年を記念する講演会が開催されました。その内容を講師の伊藤文彦氏が原稿にまとめてくださいました。前号(第一〇九号)に続き、ご寄稿文を掲載いたします。

5 熊野街道

熊野街道は、伊勢から田丸を経て、南西へ道を取り、熊野へと向かう街道である。野中までは和歌山別街道と同じ経路をたどる。野中で、道標

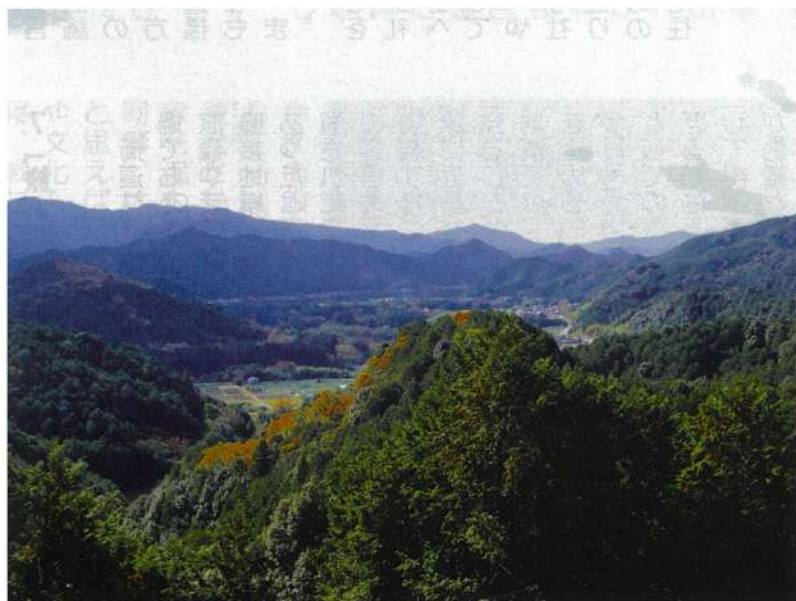


図4 女鬼峠(尾根筋)からの眺め

の指し示す「左さう」道」を辿るのが熊野街道である。野中の先は、成川の集落をすぎ、枳が池(湿地性植物群落は県指定天然記念物)の横を通ってマメナシの木(町指定天然記念

物)横から、峠越えの山道が始まる。近世にさかのぼる断面U字型を呈する山道が山中に良好に遺っている。さらに進んで伊勢自動車道の高架をくぐると、道は左右に分かれる。左が江戸道、右が明治道。江戸道は基本的に徒歩の通行に適しており、急坂を一直線に登っていくのに対し、右の明治道は荷車が通りやすいように傾斜は緩やかだが距離が長い。江戸道をたどれば、峠手前で一度道が途切れるが、現在は地域の保存会の皆さん整備によって歩くことができる。尾根にまで上ると、はるかに熊野の山々を望むことができる(図4)。明治道をたどると、峠部分は切通しになっており眺望はきかない。しかし、明治時代にこうした規模の大きな土木工事を行っていることには驚かされる。峠の名前は今日では女鬼峠と呼んでいるが、近世の文献ではネギ峠やめつき峠などと記されており、名称としては安定しない。峠の少し先に如意輪観音像と六字名号碑が祀られている。峠にあったものが切通の工事の際に移動させられたものではないかと考えら

れる。祠の中の如意輪観音像は享保年間の銘を持ち、西国三十三所巡礼一番札所の札所本尊である如意輪観音を彷彿とさせる。下り坂にも江戸道が所々にのこっているが、ほとんどが明治道と合致している。坂を下ると相鹿瀬の集落にいたる。相鹿瀬には、「右くまのみち」の道標があるが、先年、東へ10mほど動かされた。相鹿瀬を過ぎれば、熊野街道は多気町を出て、大台町へと入る。

6 「さんぐう道」と「やういぐ道」

ここまで紹介してきた伊勢本街道、和歌山別街道、熊野街道は、いずれの名称も、その目的地となる地名が街道名となっている。ところが、街道沿いに建てられた道標を見ると、それぞれ目的地の代りに、旅の目的が書かれた道標が存在することが目につく。まず、いずれの街道の道標でも「さんぐう道」と書かれたものがある。伊勢本街道沿いの田丸、西池上、相可の道標や、和歌山別街道沿いの野中、長谷、丹生、粥見の道標、熊野街道沿いの相鹿瀬の道標な

多気郷土資料館夏季企画展

女性たちの歩み

「ジェンダー視点でみる館蔵品」

令和6年

7月17日(水)～9月22日(日)

9時～16時 月曜・祝日休館

入館無料

ジェンダーは、生物学的・身体的な性別と異なり、社会的・文化的に作られた性差のことです。

今回の企画展は、このジェンダーの視点から多気郷土資料館にある資料を捉えなおし、女性たちがどのような社会を生きてきたのかについて考える機会になることを目指しています。

女性天皇・女官の活躍

相鹿瀬には、奈良時代後期伊勢神宮に付属する寺院として大神宮寺「逢鹿瀬寺」があり、その跡地から当時の古瓦



逢鹿瀬廃寺出土 軒丸瓦

が見つかっています。同寺を大神宮寺としたのは、女性である称徳天皇(孝謙天皇が退位後、再び即位)でした。

仁和元年(八八五年)に近長谷寺(長谷)を建立した飯高氏は古代、水銀の産地丹生を支配し、それにより莫大な富を築きました。同氏は氷高内親王の乳母の一族であったことから内親王が元正天皇として即位すると、飯高諸高を采女(下級の女官)として送り出しました。諸高は元正・聖武・孝謙(称徳)・光仁の各天皇に仕え、采女から典侍・三位へと異例の昇進を遂げた女性で、彼女の活躍が飯高氏一族の地位を高めることにつながりました。

女性と信仰

平安時代に入る頃から、女性を宗教上、不浄で罪深い存在とみなす差別的な考え方が広まっていったとみられます。今なお一部に残る、寺社や霊山等の神聖な場で女性を排除する女人禁制の背景にはこのような考え方があったのです。女人禁制であった高野山に対し、女性の参詣が許されたことから「女人高野」と呼ばれた寺が町内にもあり

ます。丹生にある神宮寺です。普賢菩薩は、それまで成仏できないとされていた女性の極楽往生を説く「法華経」の



普賢菩薩坐像 普賢寺蔵

守護者であることから、女性の信仰を多く集めました。神坂にある普賢寺の普賢菩薩坐像重要文化財もそのような仏像の一つです。

朝柄出身の商人で、幕末・明治期に農村指導者として活躍した岡山友清は、収穫量の多い米の品種「伊勢錦」の開発者として有名です。世のために奉仕する彼の活動を支えたのは、富士山を崇拝する民間宗教「不二道」です。不二道は男尊女卑思想・女性の不浄視を否定し、男女が対等の立場となり、女性がより積極的に活躍する社会の実現をめざす当時としては革新的な考え方を示しました。

女性の「商品化」

江戸幕府公認の遊郭、吉原のガイドブック『吉原細見』には店ごとに遊女の名

前や格付け。ランク別の相場金が掲載され、客に重宝されていました。宿場町の発展とともに、地方にも遊女屋が作られ、参宮客で賑わった相可にも泉屋、鶴屋等の遊女屋がありました。

望まれた女性像

江戸時代、家父長制の確立、儒教的価値観の浸透により、女性をあるべき女性像にはめ込もうとする女訓書が多く生まれました。「列女伝」も賢明、貞節、孝行など模範とすべき女性の人物伝を集めた一種の教訓書です。



本朝列女伝 明治12年

明治以降、女性には国家を支える優れた人材を育てる役割が求められ、良妻賢母主義が台頭、男女の性別役割分担意識がいつそう強まることになりました。

兵力や国内の労働力が不足した総力戦下では「銃後の守り」という標語のもと、多産奨励策、女性の労働力動員が推し進められたのです。

「ちょっとひとこと」欄へのご投稿をお待ちしています。郷土資料館についてのご意見、郷土の歴史に関すること、昔の暮らしの思い出などなんでも結構です。400字詰め原稿用紙1枚程度でお願いします。